



自死遺族が抱える悲しみやさまざまな問題への支援のあり方を考えたシンポジウム＝9日午後、福岡市博多区のホテル日航福岡

## 自死遺族支援を考える

厚生労働省が福岡市でシンポジウム

厚生労働省が主催する初の自死遺族ケアシンポジウムが9日、福岡市であり、行政や遺族支援に携わる民間団体から七十人ほどが参加した。

基調講演をした長崎こども・女性・障害者支援センター所長の大家俊弘さん（精神科医）は、自死遺族に起こる心や体の反応について解説し、必要なものは遺族それぞれで異なり、時と場合によって異なることを話した。

パネルディスカッションでは、自死遺族が二カ月に一度集まり悲しみを分かち合うリメンバー福岡（福岡市）の集いの様子やビデオが映された。子やビデオが映された。連れ合いやわが子への思い、自分を責める気持ち、後悔する気持ちを吐露する遺族たちを、進行役を務める代表の井上久美子さんは「私たちの周りにいる普通の方々であり、自分も自死遺族ですと声を上げられない、その苦しみの中で生きている方々です」と紹介した。

遺族が発見され、自殺ださっている」と述べた。

コーディネーターを務めた同センター所長の西浦研志さん（精神科医）は「精神科医や精神保健に携わる者の多くは、患者や担当した人が自死しただけで終わるのではなく、自分たちが思っていることを民間が担ってく

か他殺か分からない段階でなされる警察の事情聴取は、刑事の態度いかんで遺族に癒やしがたい心の傷を負わせることにもなる。わかち合い「ハートの海」（佐賀市）を運営する佐賀いのちの電話事務局長の吉木一雄さんは、遺族を講師に招いて新任刑事への講習会をしたことも報告した。

自死遺族支援ネットワークRe（長崎県大村市）代表の山口和浩さんは、五島で初めて開いた遺族の集いについて「離島では顔が知れるので誰も来ないと思っていたが四人参加した」と話し、支援者の想像を超えるところにも助けを求める人が存在することを訴えた。悲しむ遺族を押しつけているのではなく「癒しがあった思い出や、いま楽しいことを話してください」とも促しているという。

リメンバー福岡を支える福岡市精神保健福祉センター係長の青木美紀子さんは、市の担当者が変わっても変わらぬ支援を続ける大切さを語った。「遺族支援を盛り込んだ自殺対策基本法ができたことが、よりどころになっている」と話した。

コーディネーターを務めた同センター所長の西浦研志さん（精神科医）は「精神科医や精神保健に携わる者の多くは、患者や担当した人が自死しただけで終わるのではなく、自分たちが思っていることを民間が担ってく

▼リメンバー福岡自死遺族の集い rem.hu  
kuoka@wood.tti2.ne.jp 092(737)8826—  
平日午前10時—正午、午後1時—4時  
▼佐賀いのちの電話・自死遺族支援わかち  
合い「ハートの海」 0952(34)4186—平  
日午前11時—午後4時、090(7928)4186  
—水曜正午—午後4時  
▼自死遺族支援ネットワークRe info@  
re-network.jp 090(5280)5032

### あすは

十六日の医療・健康面は、九州大  
学病院の呼吸器科で患者さんや家族  
を対象に毎週開かれている「肺がん  
について考える会」を紹介します。

▼ご意見、情報をお寄せください

医療、健康に関するご意見や記事の感想、「ドクターに聞く」への質問をお寄せください。紙上匿名は受け付けますが、氏名、連絡先を明記してください。あて先は〒810-8721（住所不詳）西日本新聞社編集局医療・健康取材班。ファクス＝092(711)6246。メール＝med@nishinippon-np.jp

西日本新聞のホームページに「医療・健康」のページを公開しています。過去の特集記事もバックナンバーとしてあります。アドレスはhttp://nishinippon.co.jp/